



少年たちの戦場

奇兵隊、満蒙開拓青少年義勇軍、沖繩鉄血勳皇隊... 戊辰戦争や第二次世界大戦で、大人にまじって武器を持ち、敵と闘った少年たちを主人公とした物語全四話を収録する。

那須正幹作 (新日本出版社)



花舞う里

母親に連れられ、奥三河の集落にきた潤。そこは花祭りという伝統神楽が根付く地だった。準備が進む中、祭りへの参加を拒否する潤。彼の心には、どうしても癒やすことのできない傷があった...

古内一絵著 (講談社)



命と向きあう教室

三月十一日、あの日全てが終わり、全てが始まった。NHKスペシャル「命と向きあう教室」被災地の十五歳・一年の記録」で放送された命とは何かを問う授業と、その背後の取り組みをまとめたノンフィクション。

制野俊弘著 (ポプラ社)



ねこがおおきくなりすぎた

ねこを飼うことにしたローマイヤー夫妻。小さくてかわいい子ねこをもらってきたはずだったのに... 一体どこまで大きくなるの？ 風刺画家としても知られるドイツの絵本作家による、とぼけた味わいのユーモア絵本。

ハンス・トラクスラー 絵 (徳間書店)

豊山俳句クラブ

青山克己選

- 静かさを水面に写し座禅草 杉浦みどり
一人居の勝手気儘や夏の蝶 村上ゆり子
大人びて来し青年の汗のつぶ 小塚美枝
新緑に吞まれるごとき天守閣 石黒貴代子
箱根路の緑語らふ父娘かな 谷崎 琴
花冷えやだあれも知らない路がある 小路八百子
昨夜よりの雨やはらかし柿若葉 田村多喜子
坪井昭子
風薫るお喋り好きな薬売り 青山克己
水に浮くままの臍でありしかな
身のうちの一隅昏し五月間 岡島 齋
来た道も行く道もあり著我の花 高木須磨子
昨夜よりの雨やはらかし柿若葉 田村多喜子
平凡に生きて素直に杜若 水野真弓
花水木見知らぬ街を過ぎゆけり 青山とも子
浮き雲や主なき家の花つつじ 安藤春一
五月晴れ始発列車を見送りぬ 杉本衿子

豊山歌壇

水野笑子選

- 山茶花の散りて沈丁花匂ひ立つ 水野勝代
春夏秋冬うつりゆくまま
亡き人の庭につばきの花一輪 水野恵子
咲けば懐かし姿なくとも
竹林にほのかに香る風のあり 村上 一枝
明るき陽ざし地面に映ゆる
朝毎に外の餌皿を確かめる 山田 米
夜半に来るらし幻の猫
老いる母親子の面会デイサービス 渡辺トヨ子
少し認知のこのままでと願ふ
一面に果てなく広がる銀世界 安達洋子
ふと現れしえぞ鹿の家族

編集後記

「子育てシエラ」という仕組みをニュースで知った。子育て中、体調がすぐれず家事ができないときなどに、顔見知りどうしSNSで連絡を取り合って、そのときできる人が手伝う。依頼した人は、今度自分ができるときに支える側になる▼子育ては、昔は親だけでなく、祖父母や親戚ばかりか、近所の人まで皆で助け合って行われていた。核家族化が進んだ今日、かつての子育ての間には壁がある。先述の仕組みは、ITでその壁を取り払う試みである▼本町にも子育てを支援する仕組みとして、特集で紹介したファミリー・サポート・センターがある。ITは使わないものの、アドバイザーが仲介する。本町は、小さい町であるがゆえに顔の見える関係を築きやすいのも利点である▼出産後、孤独感に悩む母親は多い。この孤独感、皆で子育てすることを促すための、人間の遺伝子に刻まれたサインだそう。人は、誰かに支えられ、誰かの支えになって生きていくもの。そのことを子に教えるための人類の智慧なのかもしれない。「このまちでは一人でない」と感じていただければ、サポートしていききたい。